

本邦における外陰がんの実態及び治療に関する 調査研究

目的：

この研究は、本邦における外陰がんについての調査研究を行い、患者さんの背景や治療方法の現状を把握し、今後外陰がんの有効な治療法について研究を行う際に必要な情報を得ることを目的としています。

研究の概要：

外陰がんは女性の患者さんにできるがんの中でも非常にまれな疾患ですが、高齢者に多いことが知られており、今後本邦が高齢化するに伴い本邦全体でも患者さんの数が増加することが予想されている疾患です。しかし、現時点では患者さんが非常に少ないことから、治療方針についての研究はあまり行われておらず、標準的な治療が確立しているとは言えない状況です。さらに、これまでに行われた研究のほとんどは海外で行われた研究であり、患者さんの背景や、治療法の背景が異なる本邦の実態に必ずしもそぐわないという問題があります。今後、本邦での外陰がんの治療をよりよくするためにも、本邦でも研究が行われることが望まれますが、残念ながらその研究を行うための基礎となる情報を得るための調査は1997年以降行われていませんでした。そこで、過去に治療を受けた外陰がんの患者さんの診療録と病理組織標本の情報を多施設から集積して、進行期・治療法・経過・病理組織などの臨床病理学的な情報を収集して解析することを目的として本研究を計画しました。

なお、本研究は特定の団体からの資金提供や薬剤等の無償提供を受けていません。

研究の意義：

多数の患者さんの過去の情報を分析することにより、今まで不明であった事実がわかり、適切な治療法が確立できるようになる可能性があります。

研究対象：

JGOG婦人科腫瘍グループに属する全国の主要婦人科がん治療施設において2001年1月から2010年12月までに治療を受けた外陰がんの患者さんを対象としています。ただし、もともと他の臓器にできていたがんが外陰部に転移した場合や、「悪性黒色腫」と呼ばれる組織型の患者さんは対象としていません。

研究方法：

過去の診療録と病理組織標本から、年齢、妊娠月経歴、病理組織診断、治療内容、進行期、治療経過、再発・進展形式、経過・転帰、などの情報を抽出し、すべて久留米大学産婦人科へ集積して、それらを解析します。

研究期間：

今回の研究は、調査期間を2015年6月30日までとしています。

個人情報保護に関する配慮：

診療録の閲覧や病理組織標本の分析は個人情報を伴いますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。情報収集項目に個人情報は一切含まれません。対象となる患者さんの識別は、研究目的に特に割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。また、このホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて、患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録や病理組織標本は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申して出てください。

主任研究者：国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科 高橋健太 / 加藤友康

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科 高橋健太 / 加藤友康

TEL 03-3542-2511 (内線 2534)